

# 小さいあこに 初参式の歌

## ■ 楽曲データ

歌詞：大谷範子 作詞

楽曲：牛尾孝慈 作曲

発表：法式調査研究委員会 1987年

初演：本願寺 1987年3月24日

初出：『佛教音楽』第15号 仏教音楽研究所 1987年

管理番号：M1745

## ■ 創作の経緯

法式調査研究委員会からの依頼を受け、仏教音楽研究所（現・浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室）が制作。1987（昭和62）年3月24日、本願寺第24代即如門主の長女・真利子さまの初参式にて発表。歌詞は、全国寺院婦人代表総参拝（1982～1985年）を記念して詠まれた和歌。

## ■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第3巻収録

底資料：『仏教讃歌集 こどものうた』 本願寺出版社 1991年（第5版）

比較資料：—

校訂の詳細：特記事項なし

## ■ 解説

初参式は、幼ない子どもたちが、はじめて宗教的体験を持つ大切な行事です。全国のたくさんのお寺で、いろんな工夫をして、この初参式が営まれています。

赤ちゃんが生まれたらお宮参りということが、あたかも日本人すべての習慣のように思われていますが、真宗門徒はお宮参りではなく、新しい尊い「いのち」の誕生を、阿弥陀さまにご報告したいものです。

## ◆ 曲について

歌詞は、全国寺院婦人代表総参拝を記念して、大谷範子お裏方（現・前裏方）が詠まれた和歌です。阿弥陀如来の大いなるみ光りのなかに生きるよろこびを、かけがえのない尊い「いのち」をいただいて誕生した子どもに伝えていこうとする、母のかたい決意や願いが表されています。

作曲の牛尾孝慈さん（1944～）は、安芸教区深川組明光寺衆徒（現・前住職）ですが、エリザベト音楽大学において作曲を、後に龍谷大学に進んで仏教学を

学びました。その後、ヤマハ音楽振興会に所属。仏教音楽研究所の評議員としても多くの音楽制作に携わり、組曲《楽邦》（CD『微妙音』に収録）、《迦陵頻伽》（CD『和雅音』に収録）を作曲しました。

この歌は、初参式では通常、法話のあとに讃歌として組み込まれます。参拝者が共々に歌って祝いたいものです。そのためには、式前に少し練習しておくことも大切です。

#### ◆音源

CD『仏教讃歌—歌集』には、歌とカラオケ（ピアノ伴奏）の2種類が収録されています。CD『ひかりあふれて』もご参照ください。

#### ◆歌い方について

- ①ゆったりとした3拍子の曲です。おおらかな気持ちで歌いましょう。
- ②深く、また暖かい声で歌えるように練習しましょう。
- ③歌い出しのことば、「は」を早めに準備して発音するように準備するとよいでしょう。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 25（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第150号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.